



その5

活動データ 第6回

メニュー：ゆめ地創館見学
バルーンアート体験
日程：10月20日 土曜日
場所：幌延町、遠別町
参加：24人(4年生～6年生)



地底は未知の世界

第6回目となった今回の教室は、町外にとび出し施設見学とイベントに参加してきました。子ども達を乗せたバスは公民館を出発し、最初の目的地である幌延町の深地層研究センターPR施設「ゆめ地創館」に到着。エネルギー事業に関連して深地層の状態を調査しているこの施設で、地下の状態やそこに住む生物などについて見学しました。日本の地層は大きく分けるとたい積岩と結晶質岩の二つに分類され、幌延ではたい積岩の地質について調査されているそうです。子ども達は地下500mまで一気に下降するシミュレーション型エレベーターで地下展示室へ進み、パ

ネルや化石などの展示物を見学しながら、係員の説明に耳を傾けていました。バルーンで自由自在に

幌延町を出発したバスは遠別町までUターン、生涯学習センターで開催されたバルーンアートショーに参加しました。はじめは二人のゲストによるショーの鑑賞でしたが、お客さんを巻き込んでのショーに子ども達は大盛況。次々と作られていく風船にリクエストの声がやみませんでした。

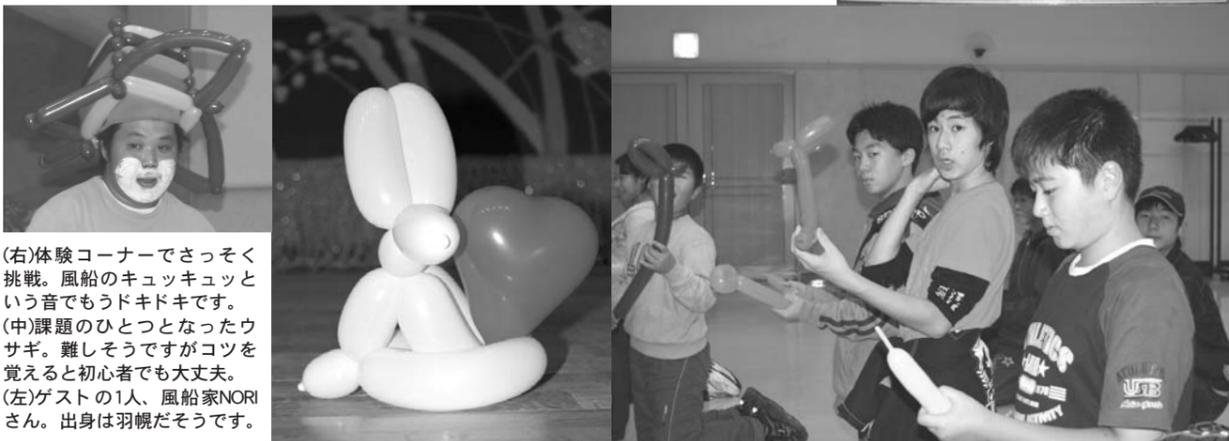
ショーの後はいよいよ体験コーナーです。全員に風船が配られると、二人のゲストから指導を受けながら、さっそく、犬作りに挑戦しました。耳や顔

足の長さなどを考えながら、一つずつ「風船をつまんでねじる」を繰り返す作業はハラハラドキドキ、割れないように慎重な手つきで作り上げていきます。出来上がった作品は、首の長さが妙に長かったり、足の長さが違ったりと、バラエティに富んだユニークな犬に仕上がりました。続いてはウサギに挑戦、作り方は先程の犬と同じ要領なのですが、ひとつ要注意。最後にハートの風船を持たせるため足の長さを調節しなければなりません。前足と後足のバランスをうまく取らないとポイントとなるハートが持てなくなってしまうのです。ねじっては戻し、ねじっては戻しを繰り返して、友達同士手伝い合いながら真っ白なウサギを完成させました。風船ひとつから、色々なものをつくり出すバルーンアートに子ども達は感激でした。



M E N U 風船家 NORI		
うさぎ	いぢりんしゅに	かばいくに
うま	のつたくま	のつたいぬ
おむ	かえだまめ	かはな
かめ	かかに	かはなのうでわ
きりん	かかぶとむしのつ	ぶーさん
こあら	かきよりゆう	かぼでいーびる
かたつくずふんと	かけん	かぼんでらいおん
かとなかい	かこもちいぬ	かましがん
かぶーどる	かすぬーびー	からぶぶーど
かべんざん	かてでいーべあー	からぶぶーどる
からいおん	かてんしのはね	
かりす	かばいく	*そのたたくえすとうけつけます

バルーンアートのメニューです。これはほんの一部、いろいろなりクエストに応じてくれます。



(右)体験コーナーでさっそく挑戦。風船のキュッキュツという音でもドキドキです。(中)課題のひとつとなったウサギ。難しそうですがコツを覚えると初心者でも大丈夫。(左)ゲストの1人、風船家NORIさん。出身は羽幌だそうです。

自然教室メモ

風船のしっぽ

風船で何かを作るときの作業でまずはじめにするのが空気を入れること。ハンドポンプを使ったり、口で膨らませたりと方法は様々ですが、共通している点がひとつあります。

それは「しっぽ」を残すこと。風船が割れる一番の原因は、空気圧がかかり過ぎゴムが破れてしまうこと。バルーンアートの基本はねじることですから、形を作っていくうちに空気がどんどん後ろへと追いやられていきます。この時、空気の入っていない部分、いわゆるしっぽが残っていないと空気の行き場がなくなり破裂してしまいます。



作るものによって残すしっぽの長さも変わります。そして形を作るときは、しっぽの反対側から。

